

FCC Ratsystem!!

寒い時期になるとお客様からネズミに対してご不安の声を聞く事が増えます。

冬は暖を求め、屋内に侵入しやすくなります。ネズミは縄張りを作るので基本的には決まった1グループが屋内に生息する事が多いです。もし主に侵入しているネズミを捕獲してもまた新たなグループが侵入してしまいます。

そこで重要なのが、

「いかにネズミの侵入を防ぐ事！」

です。

どこからともなく現れるネズミですが、必ずどこからか侵入しています。もしかしたら鋭い前歯で新たな穴を開けて侵入してきているのかもしれない。

FCCはむやみにネズミを駆除するのではなく、いかに侵入させないかを重視し「ネズミの生息が無い状態+侵入できない状態！」にします。今回はその為の防鼠(侵入口を塞ぐ作業)について例をご紹介します。

1. 隙間を埋める!

多い事例が何かの都合で空けた穴に隙間が出来てしまうパターンです。ネズミは頭が通る穴なら体も通るので、ガス管等を通した穴の隙間でも多少広がっていれば十分に侵入してしまいます。



そこで画像の様に金網とパテを使用して防鼠します。ネズミは押す力は弱く、引く力が非常に強いので、金網はくい状にする事によってしっかりと穴に引っかからせて抜けにくくします。さらに周りを忌避効果のあるパテで固めます。このパテはなんと**辛み成分**が練りこまれています！これで隙間の防鼠はほぼ破られる事はありません。

2. 大きな穴を埋める!



画像は流し台の下の壁が、木材の地の部分まで破れて外の景色が見えている図です。什器の下などは意外と覗かないので盲点になりやすいです。こういった大きな箇所は鉄板を用います。その際水気を防ぐ為にシリコンを周りに塗り、さらに万が一触って指等を切らない様に鉄板の角などは全て丸みを帯びる様にカットします。これで長く維持出来る上に安全です。

今回紹介したやり方はごく一部ですが、ネズミの生態を知った上でしっかりと防鼠する事で防鼠箇所は長持ちします。

他にも様々な箇所にあわせた素材・技術で防鼠を行います。また次回ご機会ありましたらご紹介致します。

FCC News

2012年3月号 No.0095



Index

コラム

季節のムシ暦(52)

生活の豆知識&商品紹介

FCC Ratsystem!!

株式会社FCC



〒251-0043

神奈川県藤沢市辻堂元町4-3-32

Tel 0466-31-3164

Fax 0466-31-3174

URL <http://www.fccsystem.co.jp>

E-mail info@fccsystem.co.jp

社長ブログ

感動企業とは

弊社でも感動委員会があります。感動企業を目指そうということです。社員が企画します。その行動そのものは素晴らしいものです。

サンクスカードを作ったり、手書きのお礼状を送ったり、アンケートの評価を判断したり…

でもそこに愛と奉仕の心がないと戦略と思われても仕方ない気がする。一人ひとりが心を綺麗にする必要があるな。勿論自分も含めて。

東京ディズニーランドの「天国のお子様ランチ」を紹介します。

「子供ができたらいつかはディズニーランドに子供と行きたいと思っていた夫婦がいます。しかし生まれたお子様がちょうど1歳の誕生日に亡くなりました。

それから1年後の誕生日であり命日にこのご夫婦がディズニーランドのレストランに行ってお子様ランチを頼みました。

ディズニーランドではお子様ランチは8才以下のお子様にしかな注文できないマニュアルになっています。そこでお店の人に事情を話すと、4人掛けのテーブルに案内してくれて、お子様用の椅子も用意してくれて、お子様ランチの注文を受けてくれました。

キャストの方はまるでお子様が現実にいるかの様な対応をしてくれたと言います。」

これが理念が浸透した心の行動だと思う。弊社には「地球にやさしく 人にしあわせ」という経営理念があります。理念に即した行動ならば、ハウレンソウの及ばない範疇でも構いません。地球の環境を考えよう。人が幸せになる行動をしよう。

私ももっともっと変わります。

湘南ではたらく小さな会社の社長のblogより

FCC社員ブログ

第15期

2月に入り、期が代わり14期から15期となりました。先週に、経営指針発表会を行い、今期の取り組みを発表して、決意を新たにしました。

今期は、大切な期になることは間違いありません。自分達が、やるべきことをやる。

それは、まず完全駆除を一番に掲げ、お客様の安心出来る環境をお届けすることです。私達の取り組みの中で、ここだけは外せないところです。対応や取り組みを、しっかり実行していくことが重要です。

経営指針発表会は、とても良い会になったと思います。しかし、内容を確実に行えなければ、取り決めた目標は無駄になってしまいます。今期、ひとつひとつ行って、結果を残せるようにしていきます。

サトル主任の初志貫徹日誌より

【ムシは私達の生活の場で、どんな存在なのか】

今年の冬の天候は、平年とかなり様子が違うようだ。梅の花の開花が、平年より2週間も遅いと云う。

また、東北・裏日本は、大豪雪が続き、人の日常生活に少なからざる被害をもたらせている。こんな状況では、地中の虫達にも影響をもたらせているはずだ。

こんな影響の判り易いが、虫の「異常発生」と云う表現で、今年はこれから頻繁に出てくるだろう。ただ、厄介なのは、この「異常発生」が何時、どんなレベルで起こるのかが、判らない事だ。

今回は、私達の身近で行動する虫達を「異常発生」という観点から眺めてみよう。

；害虫学を発達させたムシ

さて、私達の虫に対する見方は、その置かれた環境の中でかなり違う。判り易いのは、直感的に虫が「好き」、「嫌い」の感情論に始まり、生活の場の食品から「異物」の虫と云う特定されるものまでである。但し、虫に関心のある人は、博物学的な観点でみる。今までのこの連載はかなり問題性に眼線を定めて紹介した。

今回は、若干、環境的な所、「異常発生」と云う、環境由来的なものと虫の生理的な特性を加味して、話を進めたい。

すでにこの連載の第49回に、「虫の祟り(タタリ)」の紹介したが、これは異常な自然現象のひとつである。この問題は、今でこそ「ウンカ、ヨコバイ」と云う害虫として知られているが、その者は「祟り」と呼ばれたもので、一般には判り難いものだった。

「祟り」とは、神仏・怨霊などのするわざわいを云うが、これが、神仏の「化身」の「ウンカ・ヨコバイ」となって稲に大被害を与へたのだと昔の人は信じていた。これは、人が神仏への「礼」を失ったことに対する神の「怒り」の表現である。それに対し人々は、神仏の「怒り」を「鎮める」ためにいろいろな「神事」を行って来た。

この神事は、反省を含め、新たな「誓い」を神仏と約束する行事なのだ。云うなれば、これは、今で云う技術改良研究の一つだったのだ。

いずれにしてもウンカ・ヨコバイとの戦いは、人の生命線を保つ戦いであったのだ。この試行錯誤の果てが、今日の害虫学や農業学の原点だったのだ。

・どんな事をやって来たか？

今、ある程度、「虫」の話を知る人に、「ウンカ」について質問してみたが正確な答へは返ってこなかった。また、目標に「享保の飢饉」の話をして、そんな事があったのですかと云う程度の認識であった。虫が関与したなど、信じ難い顔だ。

長雨と害虫の発生で、稲作が大被害を受けて名古屋以西の西国で、餓えた人が200万人に達し、餓死者は、約100万人に及んだと云う。だが、「ウンカ」と云う小さな昆虫の所産、神仏の「祟り」とは云うものの、その「威力」には絶句の他なしだ。

当時の識者の中に、「雲蚊(ウンカの事)と云う虫悉く空中より一面に湧出る事有」と云う所見を論じ、外国からの飛来を暗示させたものがある。なお、これが、定点観測船による「ウンカ」観測につながった。

異常発生が無い年にも、被害軽減のために「虫送り」の行事を行い「ウンカ」の退散や沈静を神仏に祈った。しかし、当時はこれより他にとるべき方法が無かった。

所詮は、神事であって、「神頼み」なのであって、効果を期待するのは、かなり無理がある。

「食糧」を安定して得るためには、指導者的な農民や役人が失敗に失敗を重ね、ウンカが寄り付かない「散薬」を見つけ出した。

この散薬の開発は、有効な手段開発の第一歩で、これが、後世の農業学の出発点なのだった。

【写真説明】

これは、カマキリである。言い伝えに飢饉年のカマキリは、極めて細身であるとする。何か深い訳があるのだろうか？



生活の豆知識

花粉の季節 予防対策

だいぶ暖かくなってきました。

これからの季節、多くの日本人を悩ませるのが「花粉症」です。

日本人の約4割が花粉症といわれています。一般的に花粉症というと、くしゃみや鼻水といったイメージが強いですが、その症状は様々です。

第一次症状はくしゃみ、鼻水、鼻詰まり目のかゆみとされ、一般に花粉症の4大症状と呼ばれます。これは一般的ですが第二症状としては頭痛や微熱、全身のだるさなど全身症状を呈する場合があります。さらに目の周りや目の下、首筋など皮膚が薄い箇所に炎症を起こす事もあり、アトピー性皮膚炎は花粉症シーズンにかゆみが増す事がある様です。

花粉症はスギ花粉によるものが知られていますが、花粉症の原因となる植物は日本国内で現在、約50種類以上といわれています。

花粉は大きく分けて「樹木系花粉」と「草花系花粉」があります。

樹木系花粉は草花系花粉に比べると、花粉飛散距離が遠くまで飛ぶと言う特徴があります。

春の花粉は「樹木系花粉」、夏の花は「イネ科の花粉」、秋の花は「キク科

の花粉」が主で、ほぼ年中を通して花粉は飛散しています。

日本の花粉症患者の約80%は、スギ花粉が原因だと言われているのですが、同時期辺りにヒノキ花粉も飛散しています。

一度発生すると完治は難しいとされていますので、今後いかに抑えていくのかが重要になります。

対策としては外出時はマスク等で体内に入れない事が最も重要ですが、屋内に入った際も衣服に花粉がついてしまい持って帰ってしまう事もあります。家に入る際はコート等上着を一度しっかりはたいて花粉を落としましょう。

またお茶や紅茶による花粉症の改善も期待できるとの事です。

特にバラ科に含まれるタンニン（ポリフェノール）が花粉症の症状を改善してくれます。また凍頂烏龍茶などに含まれるメチル化カテキンが強力なアレルギー症状の緩和作用をもっています。

意外とこういった成分の入ったお茶はコンビニやスーパーなどに売られているお茶にも入っているので、手軽に摂取出来ます。

また日頃の手洗いやうがいにあわせて、目や鼻の洗浄も行うとより良いでしょう。

こちら専用洗浄液もドラッグストアなどで販売されているので、ぜひ活用してみてください。

しっかり対策を立てて気持ちの良い春を迎えましょう。

FCCオリジナル商品紹介

FCCピュアマイルド



5L: ¥5,040円 (税込)

(洗濯用)

汚れを落とす成分がトール（松）の油やヤシ油などの自然植物成分100%の液体石鹼です。

衣服を優しく洗い上げるのでまだまだ乾燥している春先の季節に最適です。皮膚の弱い方や赤ちゃんなどにもおすすめです。